

学校教育目標	○よく考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子	ビジョン	【目指す学校像】	道徳教育を基盤として魅力ある学校をつくる。
			【目指す児童・生徒像】	「た・な・か」の子 【 た:たくましい子 な:仲良くする子 か:かしく考える子 の:のびる子 こ:個性豊かな子 】
			【目指す教師像】	「た(Timemanagement=時間管理)・な(Navigator=誘導者・航海士)・か(kindness=思いやり・親切)」を意識し職務を励行する教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	基礎・基本を大切に分かる授業を実践し、主体的・意欲的に学び、基礎的な知識及び技能等を確実に習得させる。	個々の学習状況を正しく把握し、読む・書く・計算する力を身に付けさせる。	授業、ベーシックドリル、くじらレーン、日常のテスト、力試し、補習教室、宿題・家庭学習等を充実させる。	4 漢字、計算の定着が85%以上 3 漢字、計算の定着が82%以上 2 漢字、計算の定着が80%以上 1 漢字、計算の定着が80%未満	4	4 全国学力 国・算全国平均 -2.5pt 3 全国学力 国・算全国平均 -3.5pt以上 2 全国学力 国・算全国平均 -5.0pt以上 1 全国学力 国・算全国平均 -5.0pt未満	4	第6学年全国2教科平均 -0.8ptだった。指導力向上を目指していきたい。	A		ICT機器の活用を推進して基礎基本の学習の徹底を継続する。
		特別支援教育を充実させ、どの子にも分かりやすい授業を実践する。	市のユニバーサルデザイン(冊子)を活用するとともに、適切な環境づくりをする。	4 全校で冊子のUDチェック実施11回以上 3 全校で冊子のUDチェック実施10回以上 2 全校で冊子のUDチェック実施9回以上 1 全校で冊子のUDチェック実施9回未満	4	4 児童評価 分かりやすい授業90%以上 3 児童評価 分かりやすい授業88%以上 2 児童評価 分かりやすい授業85%以上 1 児童評価 分かりやすい授業85%未満	3	児童評価「分かりやすい授業」の肯定的回答は95ptであった。指導方法・環境の改善を進めていく。	B		人材不足の中でも児童の学びと成長を推進できる組織づくりを工夫していく。
		学年相当の時間(学年×10分)に基づいた家庭学習を推進させる。	自己の課題克服に向け、グッドライフ調査に取り組ませ、宿題+自学自習の定着を図る。	4 各学年家庭学習実施率91%以上 3 各学年家庭学習実施率86%以上 2 各学年家庭学習実施率81%以上 1 各学年家庭学習実施率81%未満	3	4 保護者評価「家庭学習習慣あり」65%以上 3 保護者評価「家庭学習習慣あり」60%以上 2 保護者評価「家庭学習習慣あり」55%以上 1 保護者評価「家庭学習習慣あり」55%未満	4	児童、学級、家庭の実態を考慮しながら推進することができたが、さらなる習慣化が課題である。	A		
豊かな心	人権意識を高め、自他を尊重する態度を醸成するとともに、集団の一員である自覚、規範意識等を育てる。	児童の道徳的実践力を高める。	道徳科の特質に即した授業を行うとともに、全教育活動を通して道徳教育を推進する。	4 特質に即した道徳授業を全学級で実施 3 特質に即した道徳授業を9割の学級で実施 2 特質に即した道徳授業を8割の学級で実施 1 特質に即した道徳授業を7割の学級で実施	4	4 思いやりの心で行動が85%以上 3 思いやりの心で行動が83%以上 2 思いやりの心で行動が80%以上 1 思いやりの心で行動が80%未満	3	自分や友達を大切にしているとの肯定的回答が95Ptと高かった。	B		令和7年度も道徳科を研究教科として道徳教育の充実を図っていく。
		教師の人権感覚を高め、児童が安心して生活できるようにする。	人権教育プログラムを活用して人権感覚チェックを年3回以上実施する。	4 年3回以上実施した 3 年2回実施した 2 年1回実施した 1 実施できなかった	4	4 児童評価「男女の別なく仲良く」88%以上 3 児童評価「男女の別なく仲良く」85%以上 2 児童評価「男女の別なく仲良く」82%以上 1 児童評価「男女の別なく仲良く」82%未満	4	相談できるが90%達成。さらに向上できるよう児童理解に努める。	A		待つ・聴く・受け止める姿勢で児童が相談しやすいような関係性を構築していく。
		学校生活をより楽しいものにする。	授業、特別活動、交流活動・交友活動を充実させる。	4 楽しくする工夫をしている90%以上 3 楽しくする工夫をしているか85%以上 2 楽しくする工夫をしているか80%以上 1 楽しくする工夫をしているか80%未満	4	4 学校生活は楽しいが85%以上 3 学校生活は楽しいが83%以上 2 学校生活は楽しいが80%以上 1 学校生活は楽しいが80%未満	4	新しい発想の工夫で、より一層意味のある活動ができたが分かった。次年度も継続していく。	A		楽しい田中小学校をつくるために、これからは新しい発想を大切にし、交流活動を推進していく。
健やかな体	日常的な運動を通して体力を向上させるとともに、健康で安全な生活のために必要な生活習慣や食習慣を身に付けさせる。	日常的な運動を通して体力を向上させる。	元気アップガイドブックを活用して体力向上のための体育的な活動を行う。	4 児童評価「運動に意欲的」の評価9割以上 3 児童評価「運動に意欲的」の評価8割以上 2 児童評価「運動に意欲的」の評価7割以上 1 児童評価「運動に意欲的」の評価7割未満	3	4 体力調査のA、B判定の児童が65%以上 3 体力調査のA、B判定の児童が60%以上 2 体力調査のA、B判定の児童が50%以上 1 体力調査のA、B判定の児童が50%未満	4	元気アップガイドブックや外遊びの推進で体力向上を推進していく。	A		元気アップガイドブックのさらなる活用と、体育学習、体力向上週間を推進し、体力向上を目指す。
		健康で安全な生活のために必要な生活習慣を身に付けさせる。	グッドモーニング60分(GM60分)を推進して健康教育を行う。	4 健康教育の授業を毎学期・年3回以上実施 3 健康教育の授業を年2回実施 2 健康教育の授業を年1回実施 1 健康教育の授業を未実施	4	4 GM60分達成率が全児童の85%以上 3 GM60分達成率が全児童の80%以上 2 GM60分達成率が全児童の75%以上 1 GM60分達成率が全児童の75%未満	3	放課後が多忙な高学年児童の達成率が上がらない。発達段階に合わせた指標も必要。	B		通年で、GM60分の推進を図るようにする。
		健康で安全な生活のために必要な食習慣を身に付けさせる。	望ましい食習慣を身に付けるための給食やお弁当(食育)の日の指導を推進する。	4 食育の指導を毎学期・年3回以上実施 3 食育の指導を年2回実施 2 食育の指導を年1回実施 1 食育の指導を未実施	4	4 食育を活用しているが80%以上 3 食育を活用しているが78%以上 2 食育を活用している75%以上 1 食育を活用しているが75%未満	4	栄養士との連携を深め、成長の基盤となる食育を推進していく。	B		残菜率は4.6%で、昨年度より増加。食育リーダーを中心に日常の食育を推進する。
輝く未来	地域・家庭との信頼関係を構築するとともに、児童の豊かな人間性や人間関係調整力を高める教育活動を推進する。	将来の夢を児童にもたせる。	6年職場体験、キャリア・パスポート等を活用し職の理解を深める。	4 生き方について考える機会を与えた70%以上 3 生き方について考える機会を与えた60%以上 2 生き方について考える機会を与えた50%以上 1 生き方について考える機会を与えた50%未満	4	4 将来について考えることがある83%以上 3 将来について考えることがある80%以上 2 将来について考えることがある77%以上 1 将来について考えることがある77%未満	4	キャリア・パスポートを活用して、将来の自分について考えていけるようにする。	A		自分の将来像をイメージさせ、生涯学習の基盤となるキャリア教育をより一層充実させる。
		学校からの情報発信を積極的に行う。	学校便りの発行・メール配信を月1回以上、HPの更新を月3回以上行う。	4 8月を除く11ヶ月で実施 3 8月を除く10ヶ月で実施 2 8月を除く9ヶ月で実施 1 8月を除く8ヶ月で実施	4	4 保護者「分かりやすい情報発信」85%以上 3 保護者「分かりやすい情報発信」80%以上 2 保護者「分かりやすい情報発信」75%以上 1 保護者「分かりやすい情報発信」75%未満	4	必要な情報が見付けやすいHPであるのご意見が多数届いた。	A		さらに必要な情報をタイムリーに発信できるよう工夫していく。
		集団の中での自分の役割を理解し、すすんで行動する力を育む。	リーダーシップやフロンティアについて理解させ、すすんで実践する児童を育てる。	4 集団内での役割の指導を全教員が実施 3 集団内での役割の指導を9割の教員が実施 2 集団内での役割の指導を8割の教員が実施 1 集団内での役割の指導を7割未満の教員が実施	4	4 生活をよりよくするが85%以上 3 生活をよりよくするが83%以上 2 生活をよりよくするが80%以上 1 生活をよりよくするが80%未満	4	児童評価「生活をよりよくする」の肯定的回答は90ptであった。さらなる向上を目指す。	B		愛校心、役割の自覚などの視点を大切にして、よりよい学校生活について考えさせる。